



〈雑録〉富ノ獲得ニ對スル社會的抑制ノ必要ヲ論ズ(2)

花戸，龍藏

(Citation)

經濟學商業學國民經濟雜誌, 25(1):145*-151

(Issue Date)

1918-07

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/00052912>



富ノ獲得ニ對スル社會的

抑制ノ必要ヲ論ズ（其二）

商學士 花 戸 龍 藏

四

特別生産力說ノ唱フル分配論ノ當否果シテ如何。本說ニ曰ク、「勞働ガ地代ナキ土地、賃料ナキ機械ヲ以テ、生産ニ從事シ、依ツテ得タル生産ノ結果ハ、是レ其ノ勞働ノ特別生産力ノ賜ニシテ、又普通産業ニ於テ總テ超過スル生産高ハ正シク資本ニ歸スベキモノ也。元來生産ノ要素ハ各其ノ特別生産力ヲ具有スルモノニシテ、完全ナル自由競争ノ下ニアリテハ、勞働者、資本家各其ノ生産セル高ノ大小ニ從ヒ自働的ニ、正當ナル生産ノ分配ニ與ルモノ也」ト。本說ノ分配論ハ要スルニ分配ノ多寡ハ、各生産要素ノ有スル特別生産力ノ大小ニ正比例スルモノ也トナ

也。然共吾人ハ之ニ賛同ノ意ヲ表スル能ハザル者也。

元來組織的産業ニアリテハ、其ノ生産組織ヲ不可分ナル一隊トシテノミ觀念シ得ルモノニシテ、各生産要素ニ歸屬スベキ分前ハ、之ヲ的確ニ指摘スル能ハズ。換言スレバ此ノ要素ハ此レ丈ケ生産シタリト、其ノ生産高ヲ指示スルハ不可能ナリ。是恰モ吾人ノ發聲ニ於テ、其ノ中幾割ガ肺隔膜ニ因ル音ニシテ、幾割ガ咽喉ニ因ル聲ナルカラ知ル能ハザルト、何等選ブ所ナキガ如シ。又組織的産業ニ或ル生産要素ニ依リテ生産セラレタル部分ト思考セルモノハ、實ハ其ノ要素ガ生産ノ條件、換言スレバ之ナケレバ生産スル能ハザルノ謂ニ外ナラザル也。實ニ生産ノ要素ハ互ニ相頼リ相助ケ、茲ニ始メテ生産ヲ爲シ得ルモノニシテ、其ノ一ヲ缺ケバ他ノ要素ハ何等其ノ用ナキニ至ル。然ルニ生産力說ノ謂フガ如ク、生産ノ要素ハ生産ヲナスモノト云フヲ

得ンカ、列車ノ機關車ニ齒輪ヲ必要トスルガ故ニ齒輪ガ列車ノ進行ヲ促ストノ不合理ヲ認メザル可カラザルニ至ラン。豈夫レ斯ノ如キノ理アラシヤ。然ルニ事ノ實際ヲ見ルニ斯ノ如キ不合理却テ行ハレ、生産ノ要素中資本最モ重キヲナセルモノトセラレ、要素トシテ、其ノ必要ノ程度毫モ之ニ劣ラザル勞働ノ所得ハ、資本家ノ爲メニ一部犠牲ニ供セラル、ガ如シ。現狀斯ノ如シトスル事實説明ノ分配論ニツキテハ、今ハ言ハズ、斯ノ如キ分配ノ現狀果シテ正當ナリヤノ見地ヨリスレバ、現行ノ分配論ノ生命ヲ疑ハザルヲ得ズ。

更ニ生産力說ニ從ヘバ、自由競争ノ下ニ於テハ、企業家ノ取得スル純利潤ナルモノハ、消滅スルモノ也トナス。然共此ノ純利潤ノ消滅スルヤ否ヤノ論爭ハ、寧ロ不必要ナリト思惟ス。使用ニヨリテ消滅スル流動資本ニ對スル利子ハ、再生シテ次ノ資本ヲ構成スベキモノナルガ故ニ

常ニ正當ナリト言フヲ得レドモ、之レニ反シテ
 固定資本ニ對スル利子ハ必シモ全部正當也ト斷
 言スルヲ得ズ、而カミ資本ハ現今固定資本ナル
 ヲ一般トナスガ故ニ總ジテ利子所得ハ必シモ正
 當ナラズト謂フヲ得ン。地代亦固定資本ノ場合
 ト同ジ。既ニ利子、地代ノ所得ニシテ勞働所得
 ノ一部ヲ不當ニ利得シ、勞働者爲メニ彼等ノ犧
 牲トナル以上、純利潤消滅シタレバトテ勞働者
 ニトリテ何ノ益力之アラン。加之純利潤ノ消滅
 スルヤ否ヤノ問題ハ、一ノ机上ノ空論ニ過ギズ。
 見ヨ、純利潤ハ過去ニ於テ將又現在ニ於テ消滅
 セザルノミカ、實ニ利潤ハ平時ニ於テ國民所得
 ノ $\frac{1}{2}$ ニシテ總テノ賃銀俸給ノ $\frac{1}{2}$ ニ當レリ
 是レ統計ノ吾人ニ示ス所タリ。

五

又生産力說ハ自由競争ヲ其ノ前提トスレドモ
 本說ノ前提トスルガ如キ然カ完全ナル自由競争
 ハ未ダ嘗テナク、又將來ニ於テモ亦之ナカル可

シ、自由放任主義ヲ唱フルモノハ、皆自由競争
 ヲ是認シ之ヲ獎勵スルモノナレドモ、自由放任
 ノ政策ハ其ノ窮極ニ於テ、却テ自由競争ヲ滅滅
 セシムルモノナルガ論者ハ之ヲ知ラズヤ。又妥
 協ヲ以テヨリ利益ナリト思考スル人々ヲシテ、
 競争セシメントスルモ由ナキ事ナリ。多クノ大
 實業家ハ其ノ取引關係ニ於テ自然ノ經濟的作用
 ヲ抑制シ、否却テ逆ニ之ヲ支配シ以テ自己ノ利
 益ヲ圖ルニ汲々乎タリ。現今我國ニ見ル極端ナ
 ル富ノ集中ハ、是レ不統一ナル自由競争ノ自然
 的結果ト言ハンヨリ、寧ロ人爲的ニ競争ヲ抑制
 スルカノ偉大ナルヲ示スモノ也ト謂フヲ得ン。
 此ノ競争ニ對スル抑制作用ヲ妨止セントセバ、
 却テ富者自身ノ存在ヲ危クスルニ至ル。自由放
 任主義、不統一ナル個人主義ノ政策ハ本來一時
 的ニシテ、之ヲ永續セシメントスルモ不可能ナ
 リ。蓋シ一方自由競争ニ於ケル生存者即チ競争
 ニ依リテ利益ヲ博シタル者ハ、更ニ競争ヲ續行

センカ或ハ其ノ競争ニ於テ意外ノ失敗ヲ招キ折角獲得シタル自己ノ財産ヲ失フコトアルガ故ニ茲ニ競争ヲ抑制スルコトニ依リテノミ自己ノ繁榮ヲ持續シ得ベク、他方競争場裡ニ於ケル劣敗者ハ一時敗者ノ悲運ニ陷レドモ、徐々ニ啓發セラレ相互ノ競争ヲ避ケ共同一致以テ、勝者ニ對抗スレバナリ。

自由放任主義ノ徹底的ナラザルコト上述ノ如クナルガ、強ヒテ無限ナル自由競争ヲ行ハンカ、之レニハ多大ノ犠牲ヲ覺悟セザル可カラズ。現今見ルガ如キ自由競争、並ニ前競争時代ノ殘セル幾多ノ實業惡慣習ヨリ生ズル年々ノ損失、實ニ測リ知ル可カラザルモノアリ。斯ノ如キ大ナル犠牲ヲ拂ヒテ無制限ナル自由競争ヲ試ムルモ爲メニ未ダ以テ企業家ノ純利潤ヲ消滅セシムルコト能ハザル可シ。假ニ一步ヲ讓リテ、之ニ依リ純利潤ヲ消滅セシメ得ルモノトセンモ、爲メニ商品ノ卸相場ハ下落シ、企業ハ衰頽シ、勞働

者ハ遂ニ適當ナル賃銀ノ支拂ヲ受ケ得ザルニ至ルベク、加之小賣相場ハ卸相場ノ下落ニ比例セズ、依然高價タルヲ免レザルガ故ニ、勞働者ノ購買力ハ減退シ勞働者ハ更ニ更ニ苦境ニ陷ルニ至ラン。由是觀之、生産力說ノ主張スルガ如キ自由競争場裡ニ於テ、勞働者ハ其ノ特別生産力ニ相當スル分配ヲ受クベシトノ理論ノ、誤謬ナルヲ知ル。實ニ自由放任、自由競争ノ勞働者ヲ害スルコト甚大ナルモノアリ。於茲乎實業家 Frank Vanderlip ノ如キ、經濟學者 H. C. Adams ノ如キ競争ニ對スル社會的抑制ノ必要ヲ叫ブ者出ヅ、亦故ナキニ非ズ。

吾人ハ上述ニヨリ分配政策上ヨリ生産力說ノ分配論ヲ論難シ、又本說ノ採ツテ以テ其ノ背景トセル自由放任主義ノ理論上、實際上採ル可カラザルノ所以ヲ、明ニシ得タリト信ズ。然ラバ次ニ吾人ノ主張スル分配論如何。項ヲ改メテ之ヲ說カン。

六

吾人ノ唱フル分配論ヲ稱シテ、組織の分配論

(The organic theory of distribution) ト謂フ。

既ニ述ブルガ如ク生産ノ一要素ノ爲シタル特別生産高ハ、不可分ナル組織の生産ヨリ自働的ニ之ヲ摘出シ得ルモノニ非ズ。生産ノ要素ノ條件タルコト、其ノ要素ノ生産ニ參與シ從テ其ノ分配ニ與ルコト、ハ、全然別個ノ關係ナリ。此ノ點ニ就キ生産力說ハ分配ノ標準ヲ各要素ノ生産力ノ大小ニ求メントスルモノナレドモ、其ノ否ナルコト吾人ノ既ニ指摘セル所ノ如シ。然ラバ分配ノ標準ハ抑モ何ニヨル可キ乎。吾人ハ力說セント欲ス。曰ク、是レ正シク正義ノ主義ニ依リテ決セラル、公正ノ問題タリ。又識者ノ以テ最モ得策也ト思惟スル政略主義ニヨルベキ也ト斯クテ开ハ習慣トナリ、法律トナリ、遂ニ確立スルニ至ラン。富ノ分配ニ對スル法律習慣ノ偉大ナル勢力アルコト、吾人ノ常ニ經驗セル所タ

リ。

夫レ既ニ生産ノ結果ハ正義、公正ノ見地ヨリ分配セラレザル可カラズ。此ノ吾人ノ見解ニシテ誤ナシトセンカ、現今見ルガ如キ分配ノ現狀、豈默々トシテ看過スルニ忍ビンヤ。吾人ハ茲ニ改メテ切言ス。即チ曰ク、富ノ獲得ニ對シ社會的抑制ヲ試ミザルベカラズト。現在ノ所有主並ニ其ノ相續人ヲ害セズシテ、不勞の増價殊ニ土地ノ自然的増價ヲ社會化シ、資本ノ公有政策ヲ擴大シ、相續ニヨル財産ノ移轉ニ更ニ制限スルガ如キ、又最低賃銀局ノ活動ノ範圍ヲ擴張シ、銀行其他共同經營ニ依リ富ヲ獲得スルノ機會ヲ減少セシムルガ如キ、更ニ又社會ハ必シモ製造業者ノ仲介ニ依ラズシテ仲買人、小賣人トナリ、以テ物價ノ調整ヲ圖ルガ如キ、此等皆疑モナク社會ノ當然爲シ得ル所也。吾人ハ斯ノ如キ簡單ニシテ有效ナル社會的抑制ノ策ヲ、提唱スル者ナキヲ怪シム。從來トテモ世人富ノ獲得ニ對ス

ル社會的抑制ノ必要ヲ唱ヘザルニ非レドモ、其ノ行フ所一部ノ主ナル經濟階級ノ人々ノ利益ノ爲メニ圖ルノ有様ナリ。然共既ニ社會政策ノ必要ヲ口ニス、吾人ノ提唱ノ獨斷的ナラザルヲ知ラン。

七

吾人ハ以上數項ニ涉リ、自由放任主義ノ採ル可カラザル、生産力説ノ分配論ノ政策上妥當ナラザル所以ノ大要ヲ述べ、更ニ吾人ノ提唱セル分配論ヲ説明シ、富ノ獲得ニ對スル社會的抑制ノ必要ヲ力説シタリ。

最後ニ更ニ附言スベキ結論アリ。適當ナル分配制度ナキ所如何ナル富ノ生産モ國民ニ對シ未ダ以テ經濟的成功ヲ治メ得タリト謂フヲ得ズ。社會ニシテ或ハ豪奢ヲ極ムル富者アルアリ、或ハ貧ニ泣ク細民アルアリ、中等社會ノ益低下シ行クガ如キ現今ノ如キ缺陷甚シキ分配制度ノ存スル限り交通ノ擴張モ、貿易ノ振興モ、將タ又

手形交換高ノ増加モ、其他各種ノ生産増加政策ハ全ク無意味ナリ。生産政策乎分配政策乎。生産問題ハ既ニ適度ノ解決ヲ見タリ、生産政策ヲ第一義トスルノ時ハ既ニ逝キ、今ヤ分配問題ノ解決ノ必要翕然トシテ吾人ノ目前ニ迫ルヲ覺ユ分配ノ問題ハ交易ノ問題ニモアラズ、法律ノ問題ニモ非ズ、思想ノ健全、善良ナル習慣、道德標準ノ向上、分配問題ヲ解決シ得ルモノ只此等而已。サレバモヤ從來ノ如キ利己主義、我利主義ノ道德習慣ハ之ヲ棄テ、宜シク社會本位ノ主義ニヨル可ク、又思想ハ保守ニ流レズ進取ニ失セズ、穩健ナル中庸ヲ得タル意見ヲ迎ヘ適當ナル輿論ノ喚起ヲ促サル可カラズ。斯クテ富者ノ勢力ヲ抑制シ、貧者ヲシテ經濟上ノ壓迫ヨリ免レシメ、吾人同胞悉ク法律上ノ自由ト並ビ事實上ノ自由ノ光ニ浴スベカラズ。斯ク觀ジ來レバ吾人ノ富ノ獲得ニ對スル社會的抑制ノ必要ヲ叫ブ徒勞ナラザルヲ知ル。

Frank A. Fetter / 論駁ノ要旨 (前掲雜誌 p. 232)

—234—

一、論者ハ自由放任主義ヲ類リト攻撃シテ居ルガ、自由放任主義ノ如キ既ニ業ニ葬リ去ラレテ居ル筈デアル。今更之ヲ論難スルガ如キハのナキニ矢チ放ツノ譏ヲ免レヌデアロウ。

二、又次ニ John R. Clark 一派ノ所謂特別生産力説ノ當否ニツキ、彼レ是レ言ツテ居ルガ、是モ亦吾人ナリ。Advantage 教授ナリガ、既ニ詳シク批評シタ所デアアル。自分ハ Clark ノ著作ニ對シ敬意ヲ表スルコト人後ニ墜ナル者デハナイガ、少クトモ此ノ生産力説ノ部分ハ初メヨリ (一九〇一年來) 感服シテ居ラヌ。彼ノ謂フ現ニ行ハレテ居ル所得分配ノ證明論トシテモ、大ナル矛盾ガアル。自分ハ既ニ彼ノ所謂各生産要素ノ特別生産高ナルモノヲ證明セズ又證明シ得ナイデハナイカト、攻撃シテ置イタ。

三、一體經濟學者ハ經濟現象ノ原因結果、事實ヲ闡明シ、價值價格ノ學術的研究ヲシテ居レバヨイ。社會政策ヲ論ズルガ如キハ、聊カ差出ケ間數トノ譏ヲ免レナイ。斯様ナコトハ社會學者ヲ政治家ノ類ニ任セテ置ケバ良イコトデアアル。

筆者 H. C. Hayes / 辯護論ノ大要 (p. 237)

238.)

一、論者ハ自由放任主義ハ遠ノ昔ニ葬ラレテシマツテ居ルト言フガ、勿論今ハ自由放任主義ノ全盛時代デハナイニシテモ、多クノ教科書ニモ未ダ論シテ居ルコトデモアリ、又全ク葬ラレテシマツテモ居ラヌ。ヨシ死ンデ居テモ、或ハ息チ吹キ返ヘシ物言フトモ限ラヌ。少クトモ葬式ハ未ダシデアル。

二、論者ハ又特別生産力説ノ如キ既ニ論難シ盡サレ、死ンダモ同様ダト言フガ、自分ガ言ツタ所ヲ繰返シ克ク讀ンデ貰ヘバ葬ラレテ居ルヤ否ヤハ別トシテ、葬ラルベキデアアルト論シタコトガ明ニナルデアロウ。殊ニ經濟教科書ニモアリ又相當ノ賛同者モアルコトデアアルカラ、之ヲ批評スルモ強チ徒勞デアアルトハ言ハレマイ。

三、自分ノ言フ所ハ斯クアルノ事實證明ヨリ之ヲ見ズ、斯クアルベキ也トノ分配政策上ノ見地ヨリ論シタノデアアル。分配政策ヲ論シテ不可ナリト言フコトガ言ヘルデアロウカ。

(完)